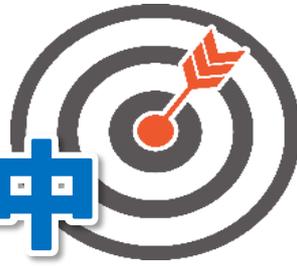


2024 ズバリ! 的中



日本史

慶應義塾大学

前近代の暦に関する内容（宣明暦、授時暦、貞享暦、高橋至時、高橋景保、高野長英）がズバリ的中

入試問題

2月14日実施 商学部
II 問1

II. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

政治の安定と経済の発展を背景に、17世紀末から18世紀の初め、上方を中心に華やかな町人文化が生まれた。幕藩体制の安定とともに儒学が重視され、その合理的・実用的考え方は他の学問にも影響して、実用的な学問が広く発展した。暦学では渋川春海が、平安時代以来使用されてきた(41) (42) 暦にかわるものとして、元の(43) (44) 暦をもとに、(45) (46) 暦を作った。この功績により、幕府は天文方を設け、渋川をこれに任じた。

幕府

天文方である(57) (58) は西洋天文学を研究し、間重富と寛政暦を完成させた。幕府は蛮書和解御用を設け、蘭学者を登用して、蘭書の翻訳にあたらせた。その一方で、蘭学を通じて世界情勢についての認識を深めた蘭学者たちが幕府政治を批判することを恐れた幕府は、1828年のシーボルト事件や1839年の蛮社の獄といった蘭学者の弾圧をおこなった。シーボルト事件では幕府天文方の(59) (60) らが処罰され、蛮社の獄ではシーボルトに医学を学んだ(61) (62) らが処罰された。結果として、西洋文明の移入は医学、兵学、地理学など、幕府を批判する思想や政治運動に結びつかない実学としての性格が強めていった。

問1 文中の空欄(41) (42) ~ (75) (76) に当てはまる最も適切な語句を下記の語群より選び、その番号を解答用紙A(マークシート)の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

| | | | | |
|----------|------------|---------|------------|----------|
| 11 会沢安 | 12 新井白石 | 13 生田万 | 14 稲村三伯 | 15 宇田川玄随 |
| 16 宇田川榕庵 | 17 江川太郎左衛門 | 18 緒方洪庵 | 19 阿蘭陀本草和解 | |
| 20 海軍操練所 | 21 開成所 | 22 懐徳堂 | 23 解剖図譜 | 24 勝海舟 |
| 25 咸宜園 | 26 享保 | 27 工藤平助 | 28 グナイスト | 29 グラバー |
| 30 講武所 | 31 古義堂 | 32 コンドル | 33 酒井抱一 | 34 佐藤信淵 |
| 35 授時 | 36 種痘所 | 37 貞享 | 38 芝蘭堂 | 39 史料編纂掛 |
| 40 西域物語 | 41 倉密開宗 | 42 関孝和 | 43 宣明 | 44 高野長英 |
| 45 高橋景保 | 46 高橋至時 | 47 天保 | 48 天明 | 49 ナウマン |
| 50 中井鑿庵 | 51 中井竹山 | 52 西川如見 | 53 橋本左内 | 54 蕃書調所 |
| 55 平賀源内 | 56 藤田東湖 | 57 藤田綱谷 | 58 フルベッキ | 59 文政 |
| 60 ヘボン | 61 本多利明 | 62 ボンベ | 63 村田清風 | 64 明倫館 |
| 65 モース | 66 洋書調所 | 67 吉田松陰 | 68 蘭学階梯 | 69 蘭学事始 |
| 70 曆象新書 | 71 渡辺崋山 | | | |

河合塾

直前講習 早慶大日本史テスト
第1講 2

② 次の文章(イ~ハ)を読んで、文中の空欄(A~J)に該当する語句をそれぞれの語群の中から選び、1~9の数字を、語群の中に適切な語句がない場合は0を記入しなさい。(配点 10点)

(イ) 具注暦は、暦日のほか、日時吉凶・禁忌、節季・年中行事などの暦注を備えており、物忌や方違に示されるように、貴族の日常生活には欠かせないものであった。藤原実資の(D)をはじめ、平安貴族の日記は具注暦に書き込んだものである。具注暦には漢字だけが用いられたのに対し、平安末期以降仮名暦が作成されるようになり、鎌倉末期から室町時代にかけては版暦が印刷・刊行されて、暦の普及は著しいものとなった。それは一方では、地方暦の登場からもうかがえる。室町中後期に暦書の代名詞となった(E)の三島暦、伊勢の丹生暦・宇治暦、奈良の南部暦、陸奥の会津暦などがその例である。しかし、時に京都との日付の食い違いが生じるようになり、そもそも、862年に採用された唐の宣明暦を全く改訂しないまま使い続けたことから、実際の天体の動きとの誤差は著しいものとなっていた。1685年、(F)は元の授時暦をもとにしながら、長期観測による修正を加えて、初めて日本人の手になる暦、貞享暦を完成した。この功績によって、(F)は幕府の天文方に登用された。

1. 小右記
2. 伊豆
3. 中右記
4. 西川如見
5. 台記
6. 薩摩
7. 吉田光由
8. 山脇東洋
9. 武蔵

(ハ) 麻田剛立のもとで西洋天文学を学んだ高橋至時は、1795年3月、同門の間重富とともに幕府への出仕を命ぜられ、同年11月、天文方に任命された。彼が中心となって作成した(G)は1798年より施行されたものの、その後も不備を補おうと蘭書にあたって研究に没頭し、業半ばにして病に倒れた。あとを継いで天文方に任ぜられた子の高橋景保も、自らの建築で創設された(H)を主宰するなどして活躍した。(I)で(J)ら幾多の俊才を指導したシーボルトとも親交があったが、その帰国に際して制禁の日本地図などを贈呈したことが発覚して捕らえられ、獄死した。その後、弟の高橋景祐らが完成した天保暦は、最も精緻な太陽暦として知られている。明治新政府は明治5年12月3日を明治6年1月1日として太陽暦を採用したが、暦注は民間の年中行事や日・方角の吉凶の観念などのかたちで生き残った。

1. 芝蘭堂
2. 蕃書調所
3. 寛政暦
4. 高野長英
5. 適塾
6. 稲村三伯
7. 鳴滝塾
8. 宝暦暦
9. 洋書調所